

岡山

中国地方と聞いて、真っ先に出てくるのがおそらく広島。その次ぐらいが岡山ではないだろうか。広島と聞けば、色々と思い浮かぶものもあるが、岡山は難しい。桃太郎と岡山城ぐらいかもしれない。個人的には、広島に隠れた、若



干存在感の薄い県という印象を持っている。それでも行ってみると、色々な意味で興味深いものがたくさんある場所だった。

ほとんど何も予備知識のないまま、岡山に着いて、とりあえず思い浮かんだのが岡山城。駅からだいたい歩くとのことではあったが、他に行く当てもないので、とりあえず行ってみることにした。20 分くらい歩いたと思う。旭川という川が見えてくる。結構大きい川だ。旭川沿いを歩いていくと、今度は月見橋という大きな橋が見えてくる。そして、現れたのが真っ黒の岡山城。岡山城は、その黒い見た目から烏城とも呼ばれている。3 層 6 階の約 24 メートルと結構大きいお城であった。衝撃的だったのが、その奇妙な見た目である。お城を



正面から見ると、何故か真っ黒い天守にカラフルな包装紙みたいなものが貼り付けられているのである。後々、わかったことではあるが、どうやら岡山がマスキングテープ発祥の地であるという説が存在することから、一種のキャンペーンみたいな事で、こ



旭川と岡山城

ういった装飾が施されていたみたいである。ただ、このマスキングテープ発祥の地というのは、あくまで地元の人間が言っていた事なので、正直なところ、真偽は不明である。ネットで調べてみても、さすがに発祥ではなく、あくまで名物(?)に留まる程度の感じもする。おそらく、倉敷にものすご

い数のマスキングテープを揃えた店がある様で、そのお店がマスキングテープの普及に一役買ったという話みたいである。とにかく、何が言いたいかというと、不自然な装飾が施され、せつかくの真っ黒くてカッコいいお城が、一気に気持ち悪くなったので、あれはやめた方が良いということである。あくまで私の意見だ。不思議なもので、ネガティブなところに目がいってしまくと、立て続けに変なところに気がついてしまうのである。岡山城は造りが少し安っぽい気もする。もちろん模擬天守なので、当時の姿に似せて造られたのだとは思いますが、お城といっても、お城に似せた現代風の建物という感じが、もろに出てしまっているのである。たぶん、天守が結構大きい分、安い造りみたいなのが余計に目立ってしまっているのかもしれない。ただ、私個人的には好きな色は黒だし、見る角度によっては、結構カッコよかったりもするので、良いと思う。特に正面からではなく、旭川沿いから見た後姿がなかなかカッコいいと思う。

天下人となった豊臣秀吉から身内の様に厚遇され、大大名になった宇喜多^{うきだ}秀家^{ひでいえ}が秀吉の指導を受けて造ったのが岡山城である。1597年に8年の年月をかけて完成させた。旭川が天然の外堀として活用されるように城が構えられている。あの黒い見た目



月見橋



旭川

が印象抜群であるが、天守閣の壁に黒漆塗りの下見板を取り付けていたというのはこの時代の特徴とのことである。関ヶ原合戦で負けた秀家は、八丈島に流されることとなる。秀家に代わって城主になった小早川秀秋は外堀の外側に城域を拡張

し、新たに外堀を設け、その外に寺町を配置した。この外堀工事には農民だけでなく、武士も使役したことから、わずか 20 日で完成した。それゆえに、「二十日堀」と呼ばれた。秀秋がアルコール依存症による内臓疾患により、21 歳の若さで急死した後、岡山城は幕藩体制の下、岡山藩の城府となり、池田家を藩主として明治維新に至る。藩政が安定期に入った 17 世紀末に旭川を隔てた北側に後樂園が造られることとなる。

後樂園は、石川の兼六園と茨城の偕楽園と並んで日本三名園の 1 つにカウントされている。先に言ってしまうが、私はあまりたいしたことないと思った。私にこういう庭園を見るセンスがないのかもしれないが、ただ広いだけで、そんなに美しいとか感じるどころもなかった。岡山で食事をした夜、店の店主に、岡山の見所を訪ねたら、真っ先にこの後樂園を挙げていた。日本三名園の 1 つに入っているぐらいだから、地元の人からしたら誇らしいのだろう。ただ、その話を聞いたのが、後樂園に行った後だったので、その時はおもわず笑ってしまった。正直、あれだったら、姫路の好古園や、東京の皇居の庭園の方がよっぽど良いと思う。あくまで素人の私が見た感想である。

後樂園というのは、1687 年に岡山藩主であった池田綱政が藩主の安らぎの場を設けると



後樂園



岡山駅前 桃太郎像

いった目的で、造らせたものである。1700年、14年もの歳月をかけて完成させた。133,000㎡と、実に東京ドーム3倍もの敷地面積を誇っている。さすが三名園の1つにカウントされているだけあって、たくさんの観光客が訪れていた。確かに、背景には岡山城が見えて、贅沢な眺めといわれたら、そうかもしれない。綱政の時代の頃は、庭

園内に建てられた建物の座敷から、眺めを楽しむといった感じだった様で、どうやら今は少し雰囲気は違ってみたいである。綱政の子である継政が、園内に山や池を作らせて改変させ、園内を歩いて回るという、今のスタイルに近いものにしたみたいである。

江戸時代には、この後樂園のことを「御後園」と呼んでいた。これは、城の背後に庭園があったことが由来の様である。明治4年になって、「御後園」というのを「後樂園」の名称に改めた。そして明治17年に名園保存を目的に、後樂園を岡山県に譲渡することとなる。昭和9年には水害、また20年の戦災にも見舞われたものの江戸時代の絵図に基づき復旧が図られ、江戸時代の姿を大きく変えることなく、今に至るわけである。昭和27年には、文化財保護法による特別名勝に指定される。後樂園の運営側からしてみれば、江戸時代の面

影を残しながら、現代もなお人々に癒しを与えるといった感じで、後樂園を売り出しているとは思うのだが、正直なところ、私は後樂園より、その周りを囲む旭川とか、旭川に架かる月見橋、またその月見橋から見える岡山



倉敷 美観地区



城の方が十分に見応えがあったと思う。まあ、それでも三名園に選ばれているぐらいなのだから、見る人が見れば、やっぱり何かが凄いのかもしれない。そういえば、日本三景だって、全部制覇しているが、京都の天橋立に関しては、私には何が良いのかさっぱりわからな

かった。「わび・さび」なんて言葉もあるが、やはり素人が見るのには、少しばかり難しいのかもしれない。

岡山を語るうえで忘れてはならないのが、倉敷である。私は勘違いをしていたが、倉敷というのは市の名前なのである。恥ずかしながら、私はてっきり、よくテレビなどでみる、あの白壁の街並みのことを「倉敷」というのかと思っていた。あの白壁の街並みがあるのは、倉敷市美観地区と呼ばれている場所である。美観地区という名前は観光客からすれば、確かに分かりやすいかもしれないが、もう少し他の候補はなかったのだろうか。なんというか、そのまますぎると思う。美観地区と呼ばれている敷地は 21 ヘクタールあり、その敷地内には、日本最初の西洋美術館大原美術館や、星野仙一が倉敷出身であるという事から、星野仙一記念館というのものもある。江戸幕府の天領に定められた際、いまの美観地区に倉敷代官所が設けられ、それ以来備中国南部の物資の集散地として、発展した歴史を持つ。白壁の屋敷や蔵が並び、天領時代の街並みをよく残していることから、1969年に倉敷市の条例に基づき美観地区として定められた。1979年には、たかはししみきや高梁市吹屋に次いで県内 2 か所目の重要伝統的建造物群保存地区として選定されたている。白壁の街並みや古い町



並みは、日本各地に存在するが、倉敷の美観地区に関しては、とにかく広い。例えば千葉県佐原の街並みも古風で面白いといえ面白いが、実際 1 か所の通りぐらいである。倉敷の美観地区に関しては、とにかく広くて、表通りも裏通りも、ぜんぶ古い街並みみたいになっているから面白い。時間をかけて、散策する価値がある。人力車もあって、おじさんが 30 分くらいかけて、美観地区内をあちこち走りながら案内してくれる。美観地区内のお店には備前焼からデニムまで、倉敷自慢の名産品みたいなものがたくさん売られている。そういえば、岡山の事を色々調べていると、興味深い情報がいくつか見受けられた。前述した様に、「マスキングテープ発祥の地」があると思えば、「国内産ジーンズ発祥の地」、「カラオケボックス発祥の地」、「セルフ式うどん店発祥の地」、「ミルク金時発祥の地」「点字ブロック発祥の地」。やたらと発祥が多いのである。ここまで言われるとなんだか胡散臭い。別に、疑っているわけではないのだが、何をもって発祥と言っているのかが気になるところである。

あまりピンとこない場所だと思っていたが、岡山は案外面白い場所だった。特別、これといって凄く感動したものがあつたわけでもないが、独自の雰囲気というか、今まで行ってきた都道府県でもあまり類を見ない場所であつたと思う。どうも説明しにくい県なので、実際に行ってみて、岡山の空気を体感してきて頂きたい。

ウェバー伊安